

第5回加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキンググループ 議事要旨

1 日時：2024年2月20日（火）午後2時から4時15分

2 場所：加茂市役所3階 301・302会議室

3 出席者（敬称略）

永山光夫（加茂商工会議所 まちづくり委員会 副会長）

堀内大祐（加茂商工会議所 まちづくり委員会 委員）

萩野正和（株式会社 connel 代表取締役） モデレーター

松井大輔（新潟大学工学部工学科 准教授）

高澤 浩（第四北越銀行 加茂支店 支店長）

水谷景子（第四北越銀行 加茂支店 主任）

夏目一寿（加茂信用金庫 総合企画部 課長）

小林一隆（NST 新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長）

市川恭嗣（加茂市 CSO）

櫻木大輔（新潟県三条地域振興局 地域整備部 計画専門員（総括））

西村太佑（加茂青年会議所 理事長）

横山 泰（新潟経営大学 地域活性化研究所 所長）

青山 准（NTT 東日本 新潟支店 担当課長）

オブザーバー

宗村真斗（JR 東日本 新潟支社 企画総務部 経営戦略ユニット（地域交通・計画調整） 主任）

小野慎太郎（加茂市建設課都市計画係長）

和田丈裕（加茂市建設課都市計画係主査）

事務局：加茂市政策推進室、(株)オリエンタルコンサルタンツ

4 議事

(1) 議事内容の説明

(2) 第3回準備協議会での協議及び意見交換内容の報告

(株)オリエンタルコンサルタンツより、資料1をもとに、第3回準備協議会で提示した内容と主な意見、それを踏まえた対応を報告した。

(3) 令和5年度取組のまとめと令和6年度へ向けて

(株) オリエンタルコンサルタンツより、資料2をもとに、令和5年度の取組の振り返りとそれを踏まえた未来ビジョンのまとめ方について説明した。

政策推進室より、未来ビジョンの再構成(案)の考え方について説明した。

【WGメンバー】この後の意見交換のポイントを先に把握しておきたい。1つ目はエリアプラットフォームの立上げ期のあり方およびその後の取組についての確認、2つ目は未来ビジョンの再構成(案)について大きな違和感がないかの確認という理解でよいか。

【事務局】おっしゃる通りである。

(4) エリアプラットフォームの運営体制について

モデレーターより、新潟市のエリアプラットフォーム取組状況を踏まえ、エリアプラットフォームのあり方や取組について説明した。

政策推進室より、加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム規約(案)について説明した。

(5) 質疑応答及び意見交換

【事務局】エリアプラットフォームの立上げ期及び設置以降のあり方、未来ビジョンの打出し方について忌憚なきご意見を伺いたい。

【WGメンバー】未来ビジョンの打出し方については、経緯をわかっていることもあり、じっくり来ている。言葉選びより、市民にどう伝えるかが重要である。資料はこのままでよいが、今後どうデリバリーしていくかを検討する必要があると考えている。余談を挟むと、「道の駅」というワードでこのようなブランディングができることは嬉しく思っている。

エリアプラットフォームの立上げと設置以降については2点述べたい。まず、新潟市の事例の紹介があったが、そのまま加茂市に当てはめられるとは思わない。モデレーターには、専門家の目から見て、加茂市に当てはめるにあたってどうすべきかお考えをお聞きしたい。次に、規約(案)自体については問題ないが、最終的に誰がどのポジションにつくかを決めていくにあたり、現状の会員は女性が少ないと感じている。新潟市の事例でも、企業が中心になっているからだと思うが、写真を見てもスーツを着た男性が多く、まちづくりに多様性がないように見えてしまう。エリアプラットフォームの会員をどうしていくかを考えた方がよいと思う。加茂市では、総合計画の委員20名あまりのうち、半分程度が女性だった。全国的に

見ても、これができる市町村はなかなかない。性別だけでなく、年齢も含め、より多様な人が関われる場を作っていくのが加茂市にとって重要だと考えている。

【事務局】多様性はこれまでも意識していたが、令和6年度に向けて、加茂市としてもより意識していきたいと考えている。具体的なお答えができず恐縮だが、いただいた意見はおっしゃる通りだと受け止めている。

【モデレーター】新潟市では、企業が中心のため結果的に男性が多くなっている。加茂市の場合は企業中心というわけにはいかないと思う。

加茂市でも新潟市でも、結局のところ民に動いてもらわないといけない。行政がいなくなったらやらなくなるのではなく、お互いうまく立ち回る形でできるとよい。例えば公共空間の活用では、官の空間と民の空間の境界がなくなり、一体的に使えるようになれば理想的である。空間以外でも、事業を一緒に展開していく中で片方だけが負担を負うのではなく、お互いうまくまみがあり、継続できる形で回っていくことが求められる。男女問わず、やる気のある方であればウェルカムだと思うので、お知り合いを誘っていただく中で、新潟市の事例におけるワーキンググループのような形になってもよいのではないかと考えている。

加茂市と新潟市の大きな違いとしては、まちの空間構成がある。例えば、加茂市には、新潟市と違い、川がある。また、加茂市と新潟市では、商売相手も異なる。実際に動く面々も、加茂市の場合は新潟市のような企業中心にはならないと思う。新潟市の場合は経済拠点・観光拠点であるためビジネス寄りであり、暮らしという観点が喫緊の課題として認識されていない。加茂市の場合は、商店街を含め、住んでいる人が多いことが特徴である。これによって、福祉関係の取組が多くなったり、福祉関係の事業者が多く参加したりすることになるかもしれない。加茂市と新潟市とでは、事業者の業種や職種も異なる。現在の加茂市のメンバーは、観光等に強いが、今後は、福祉や教育に関する事業者が必要になるかもしれない。

まずは、これまでに議論してきたやりたいことに向けて、継続すべき既存の取組や新たに実施すべき取組を整理する必要がある。未来ビジョンを実現するための取組として、どこに穴があるのかを来年度以降検討し、プロジェクトとしての優先順位をつける必要がある。新潟市の場合は、ビジネスが優先事項だった。

【事務局】新潟市のエリアプラットフォーム事務局にヒアリングを行ったり、セミナーに参加したりする中で、加茂市のエリアプラットフォームワーキンググループメンバー、準備協議会委員の皆様は、非常に当事者意識が高いと感じた。

【WGメンバー】WGメンバーからデリバリーの仕方についてご意見があった。第4回準備協議会は、本年度の成果を委員の方々にお伝えする場と認識しているが、これ

までの積み上げについてまとめるのか、あるいは、市民や市外の方に発信する練習を兼ねて分かりやすく作り替えるのか。

第3回準備協議会の際には各委員より、未来ビジョンにビジュアルがあった方がイメージしやすいというご意見や、未来ビジョンがそれぞれのエリアとどう関連するのかわかりづらいというご意見があった。第4回準備協議会の際には、前回の議論を踏まえた改善がなされている必要がある。また、長すぎると誰も読まないというご意見もあった。その観点から、見せ方、届け方のイメージについてご意見をいただきたい。

【WG メンバー】 前回よりシンプルになってわかりやすくなったが、ゾーンごとのテーマの言葉選びがわかりづらいと感じた。この場ではアイデアが出ないと思うので、各々持ち帰って考えていただいてもよいのではないか。

【WG メンバー】 テクニカルな話になるが、1つのスライドに1つのゾーンのテーマを掲載し、そこに込められている思いが分かるようにするとよいと思う。現在は、1つのゾーンに関わる内容が複数のスライドに分かれて掲載されているため、キャッチコピーに込められた思いが見えづらくなっていると感じる。見せ方を工夫していただきたい。言葉選びについては、最終的に採用するかどうかは事務局側で検討することになるが、WG メンバーのおっしゃる通り皆様に持ち帰って考えていただければと思う。

【事務局】 第4回準備協議会でのまとめ方の方針だが、どちらもだと考えている。1年間の活動の結果であるため、本日お話ししたように積み上げを説明することも必要だと思う。また、言葉としてきちんと説明することに加え、第3回準備協議会でご指摘いただいたようにビジュアル化して分かりやすくすることも望まれている。両者があって最も説得力を持つと考えている。日程が迫っているため、どちらに注力するかは事務局で検討させていただきたい。

【WG メンバー】 現状のまとめ方をもう少し因数分解できないか。「まちまるごと、みちのえき」という未来ビジョンには、色々な思いが含まれていると思う。現在は、未来ビジョンの背景にある考え方とゾーンごとのテーマがうまくリンクしきれていないのではないか。資料2の p.27「実現に向けたポイント」の見せ方として、例えば「休息機能」にあたるのはどれなのかという軸を作り、クロス分析のような形式にすることが考えられる。

次に、萩野氏にお聞きしたい。新潟市の事例では、既存の取組についても未来ビジョンと一致しているのであれば組み込んでいくとのことだった。企業や組織がやりたい事業を整理し、未来ビジョンに沿うようにうまく誘導して一緒にやると

いう仕組みだろうかと思いながら聞いていた。新潟市では、やりたい事業に関する情報を集める仕組みがあるのか。加茂市のエリアプラットフォーム規約にも、そのような仕組みに関する事項を盛り込むとよいのではないかと感じた。

【事務局】 因数分解の件について、承知した。事務局にて検討する。

【モデレーター】 情報を集める仕組みについて、新潟市では、次のような取組を実施している。まず、「にいがた2km」のサイトで、ワーキンググループの取組含め広く情報を発信している。また、実際にやりたい事業がある人が問い合わせられるよう、サイトに案内を書き、連絡先を用意している。一気にたくさんの方が集まっても困るという側面もあるため、積極的に事業を募集しているわけではないが、やりたい事業を無下にするつもりもない。初年度である今は、ワーキンググループの取組と新潟市の既存の取組への理解と協力を得ることにより注力しているが、今後は、事業提案を受け付ける特別サイトを設けてもよいのではないかという話もある。事業者とのやり取りについては、民間との距離が近づきすぎて行政の負担になることがないよう、一緒にやっ払いこうという趣旨を理解してもらったうえで取組みたいと考えている。機会があれば、セミナー等に参加していただくよう声をかけている。

【事務局】 加茂市では、色々な祭りがある。祭りの実行委員会が取組を行うときに、エリアプラットフォームの活動や未来ビジョンの方向性と合っているかどうかのフィルタリングをし、一緒になって抱き込むような仕組みが考えられる。先ほどのWGメンバーのご発言では、新潟市ではそういった仕組みがあるのか、ある場合は規約に盛り込まれているのか、という点もあった。

【モデレーター】 そういった部分は、規約には盛り込まれていない。新潟市の規約は、意図的に緩くしている。

【WGメンバー】 新潟市と加茂市では事業の数や質、相対する人が違う。新潟市の場合は近づきすぎないようにしているということだが、加茂市の場合は新潟市より近くなってもよいと考えている。規約に書かないとしても、資料2のp.7「第2ステップ」の段階で、そういった仕組みをしっかりと考えられるとよいのではないか。

【モデレーター】 新潟市の場合も加茂市の場合も、間に入る事務局の役割が非常に重要である。二項対立ではなく、第三者がいて、市と事業者との親密さによらず進めるべきことはきちりと進められるようにコーディネートしなければならない。加茂市が事業を展開する側面と事務局としての側面を両方持つ場合もありうるし、新潟市のように全体をまちづくり法人にする場合もありうる。もしくは、まちづく

り団体のようなフォーメーションもありうる。なんにせよ、二者の相対関係をマネジメントし、どちらかがどちらかの言いなりになるという状態にならないようコーディネートする必要がある。これがないと、例えば花火大会の実行委員会のような、実質的に片側と一体化した形になってしまう。

また、WG メンバーから言及のあった外部へのドライブに関して提案したい。まず、加茂市ではこれまで喧々諤々の議論をして官民連携のエリアプラットフォームを設立した、ということは大々的に打ち出してよいと思う。外部から色々な意見を言われると変更しなければならぬところが出てきてしまうため、エリアプラットフォームができて、皆で未来を考えるため動き出したということを前面に打ち出した方がよいと思う。未来ビジョンの内容を知らしめたいということであれば、紙ベースで伝わらない部分を伝えるため、本日ご参加の面々に登壇いただいてシンポジウムを開催することも考えられる。例えば、これまでの議論の成果物を使いながら、どういうことを皆で考えていきたいのかを知らせることが考えられる。

【事務局】ご指摘は非常に重要だと認識している。未来ビジョンは皆様の加茂を良くしていきたいという思いを束ねるためのものであり、色々な活動が折り重なっていくということが大事であると思っている。引き続き研究していきたい。

【WG メンバー】市民はエリアプラットフォームに参加してよいのかがわからないのではないか。市民やプレイヤーとエリアプラットフォームの関係性について、簡単な表でよいので表示するとよいと思う。

また、最終的には、誰がお金を出して誰が動くのかを決めなければならない。良いビジョンができて誰が実行するのかが決まらないという事態にならないか少し心配している。新潟市の場合は、駅前が整備されればビルの価値が上がるという企業のメリットが非常にわかりやすい。ワーキンググループで行っているアプリ検討も、経済産業省の補助を受けて行った事業で作成したアプリがあって、そこにデータを載せるという議論なので話が進んでいる。シードマネーがどこにあるのかを決めておいた方が、皆さん気持ちよく参加できるのではないか。

【WG メンバー】矢掛の事例では、国の補助があり、お金がもらえるからしっかり皆でやろうということになったそうだ。元々あった古い商店街を観光向けにし、観光客が来るようになって、この2年間で十数件新しいお店がオープンした。お金は非常に重要である。また、自分たちでどこまで出せるのかに加え、プレイヤーも大事である。

【WG メンバー】現段階では、未来ビジョンや具体的な取組が決まっていないため、そのためのお金を誰がどう出すのかを明確に定められないというジレンマがある。

落としどころの提案として、第1ステップと第2ステップを明確に切り分けた方がよいというご助言をモデレーターからいただいている。来年の上期にはある程度具体的な内容が見えてくると思われるので、並行して、第2ステップに向けて何を決めていくべきなのか事務局にて整理できないか。現在の資料2p.5,6よりも詳細に書いておいた方が事業者の方も安心できると思う。来年度に持ち越される課題が何で、それをどのタイミングでどう決めるのか。何回ワーキンググループをやって何回委員会をやって各回に何を議論するのか。例えば、エリアプラットフォームの組織体制や金回りの話をいつ議論するのかがしっかり決まっていればよいと思う。もう少し具体的にスケジュールとして落とすことは可能か。

【モデレーター】来年度に持ち越される課題を整理して、今後どの段階で議論するのかを整理することはできる。ただし、予定通りには進まないし、議論は行ったり来たりするため、大体いつ頃に議論するのかという整理になると思う。

【WGメンバー】「いつ決めるのか」が明示されていればよいと思う。

【WGメンバー】新潟市では、何百社ある中の20社しかエリアプラットフォームに関わっていないが、満遍なくすべての方に理解していただくのは難しいため、それでよいのだと思う。加茂市の場合は、事業者数が非常に少ないため、ここにいらっしゃる方々のお知り合いに声をかけるだけで新潟市より多くの事業者が集まるということもありうる。よって、「どれだけ広げるか」についてはそんなに考えなくてよいのではないかと考えている。ただ、「どう広げるか」は非常に大事だと思う。未来ビジョンが市の総合計画とどう違って、何をすることで何が変わるのか。未来ビジョンやエリアプラットフォームそのものの必然性をどう伝えるかが大切である。参加者の方々が、それぞれの組織で、今後の可能性を伝えて期待感を持たせるような説明をできるようになれば問題ないと考えている。また、既存の他の取組とどう違うのかを、文字ベースであってもよいが、伝えられるとよい。

また、加茂市は、人口減少が急速に進んでいる。その中で何を解決すべきかを考えると、経済が非常に重要だと思う。ボランティアで何かをしてもらったり賑わいをつくったりするより、この地域で幸せに暮らしていけるようにすることが重要である。未来ビジョンは、満遍なくカバーするというよりは、特化する部分がわかりやすいような尖ったものにするとうよいと考える。

【事務局】どうすれば関心をもっていただけるか、アサインしていただけるかを考えたいというご意見はこれまでの議論でもあった。行政としてもエリアプラットフォームとしても検討していきたい。

【モデレーター】「尖り」は、まさに来年度皆様と検討したいと考えている。総花でいくのであれば、既存の取組と今後必要な取組を明確にし、何をすべきか厳密に検証しなければならない。未来ビジョンを尖らせるのであれば、例えば「まち」と「みどり」のことしか書かずに後は良きに計らえということもできる。どちらであってもよいと思うが、今ご指摘いただいた通り、来年度具現化しながら議論できるとよい。

【WGメンバー】市民への発信のタイミングはいつを想定しているか。

【事務局】エリアプラットフォームとして取組んでいくこと自体は3/13(水)に大々的に打ち出したいと考えている。具体的な中身については、ある程度皆さんのコンセンサスが得られてから発信したいと考えている。現在は、「まち」「みず」「みどり」「つながり」が同じ扱いになっているが、例えば「まち」の円を大きくして「みず」や「みどり」は小さくするのか、あるいは「まち」の絵は色を濃くして他は少し薄い色にするのか、といった関係性をどこまで深めるのか、広げるのかを議論したい。

(6) 閉会

【事務局】本日の資料は追って皆様に共有する。3/13(水)の第4回準備協議会に向けて、本日の議論に基づき引き続き検討を進める。

以 上